



シリーズ第52話

体に優しい手術 「腹腔鏡下手術」

腹腔鏡下手術って？

腹腔鏡下手術とは、これまでのお腹を大きく切り開く手術とはまったく異なった手術です。腹腔とは、いわゆる「お腹の中の空間」であり、胃や腸や肝臓などが納まっているところですが、鏡とは「カメラ」を意味しています。つまり「お腹の中の空間」に「カメラ」を入れて行う手術です。

お腹を大きく切り開いて行ってきた胆石、胃がん、大腸がんなどの手術を、お腹をほとんど切ることなく5〜12ミリメートルのトロッカーと呼ばれる筒を数本挿入し、お腹を炭酸ガスで膨らましてから腹腔鏡(カメラ)を用いてお腹の中の様子をモニターテレビに映し出し、細長い手術道具をお腹の外から操作して行う手術のことを言います。

「手術はお腹を切り開くため、手術後の痛みも強くつらいものである」というイメージがありますが、腹腔鏡下手術は患者さんにとっては傷が小さいことから手術後の痛みが少なく、体に優しい進化した手術であると言えます。手術後早期に歩行が可能です、食事の開始も早く、入院期間も短く、早くから社会復帰ができるようになります。ご高齢の方でも手術後の回復は非常に早い手術とされています。

日本では平成2年ごろから導入され、それ以来、胆石症に対しては標準術式となり、近年では技術的な進歩、機器の進歩・開発などにより、胃がん、大腸がんなどのがん治療に対してもどんどん適応が拡大され、着実に進歩しています。しかし、病気の進行度や腫瘍の大きさ、患者さんの既往歴、全身やお腹の状態により、必ずしも腹腔鏡下手術の適応とならない場合もありますので、医師とよく相談してください。



市民病院
消化器科・外科医長
澤柳智樹

① 傷が小さく、術後の癒傷が目立ちにくい。
手術後の傷跡が非常に小さいため、数年後にはほとんど分からなくなりますが、傷跡があまり気にならなくなるため、精神的にも非常に楽です。

② 手術後の痛みが少ない。
お腹を大きく切らないため、手術後の痛みが非常に少ないことが最も大きな長所です。
③ 手術後の早期離床が可能となる。
傷が小さいため痛みが少なく、早くから歩くことができます。

④ 手術後早くから食事が取れる。
手術後の胃腸の動きの回復が早いいため、食事も従来の手術と比べると、早くから開始できます。

⑤ 早期の社会復帰が可能である。
日常生活へ早く戻ることができ、一般的な仕事などの社会復帰も早くから可能です。

① 手術時間が長い。
非常に繊細な手術操作であるため、手術時間が全般に長くなります。医師の手術経験数に伴い短縮する傾向にはありますが、やはり従来の手術と比べると多少時間がかかります。(麻酔技術の進歩により体に負担は少ない)

② 手術が難しい。
従来の開腹の手術とは異なり、テレビモニターを見ながらの手術で、特殊な細長い手術道具しか使えず、手で直接触らない手術であるため非常に難易度が高く、高度な技術が要求されます。